

キュウリのホモプシス根腐病

県内における発生状況と防除対策

園芸環境部 病害チーム TEL:022-383-8125

研究の目的

キュウリホモプシス根腐病は、平成17年に県内で初めて発生が確認された防除しにくい土壌病害で、発生地が年々拡大しています。そこで県内での発生状況や防除対策について調査をしました。

研究成果

・病徴

葉は初め生気を失い、晴天時の日中は萎凋しますが、朝夕や曇天時には回復します。これを繰り返しながら、徐々に枯れあがり、発病程度の高い株は枯死します。根ははじめ淡褐色や褐色になって、細根が腐敗脱落します。病徴がすすむと不定形で中心が灰褐色の黒色帯上病斑（疑似子座）が観察され。この疑似子座が本病を診断する上でのポイントとなります。



地上部のしおれ



根の病徴

・県内の発生状況

県内では発生が確認された平成17年9月は4戸でしたが、平成18年12月末現在、13戸に増加しています。

・防除対策

キュウリのホモプシス根腐病に農薬登録のある薬剤（平成19年4月末現在）はクロールピクリン、クロピクテープ、クロールピクリン錠剤で、これらの剤による土壌消毒を実施すると高い防除効果があります。

栽培期間に発病したときは地温の低下や著しい土壌の乾燥を避け、根の成長を促進し、被害の軽減を図るようにします。

普及等の見込

防除対策は植え付け前の土壌消毒のみです。そのため早期に発生を確認することが重要です。

